



受 講 案 内

2026

教室で、
セカイと
同期する。

総合科目(学士基盤科目)

(科目番号1226151)

トップランナーが語る社会課題
— 混沌化する世界と変貌する地方

※令和6年度以前に開講していた「社会基礎学Ⅰ—「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成」と同一。
※大学院生も所定の手続きにより履修可能(詳細はP.14を参照)

大学院共通科目

(科目番号0A00402)

次世代モビリティと未来社会像

大学院共通科目

(科目番号0A00401)

多極化する世界とこれからの日本

筑波大学



JAPIC

日本プロジェクト
産業協議会





この授業

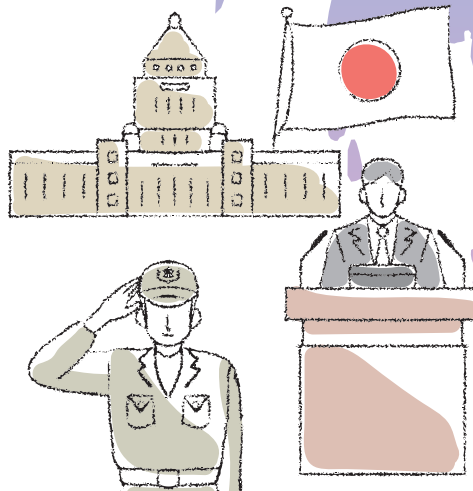
16つの

「グローバル化と地域の日本のあり方」と同期する

我が国は課題解決先進国といわれます。その課題とは、たとえば公害に対する環境保全や省エネルギー化、少子高齢化などへの取組みを挙げることができます。これら多くの課題のなかに、世界に先駆けて直面して取り組み、解決をみてきたものも少なくありません。またそれらの取組みには、ローカルな地域での取組みが、国としての取組みより活発な場合もあります。ローカルな取組みが世界に輸出できる、という考え方も現実味があります。そのようなGlobalとLocalな関係に光をあてて理解を深めましょう。

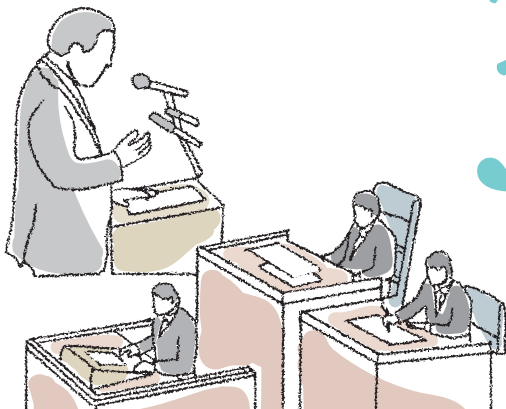
2 「政治・政策」と同期する

平成27年(2015年)に公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、選挙権年齢が18歳に引き下げられました。すなわち、大学に入った皆さんにはすべて選挙権があることとなります。しかし、選挙で選ばれた国会議員、地方自治体の長や議員はどのような役割を持つのか、そもそも政策の決定過程はどのようなものなのか、知っているようでわかっていないことも多いでしょう。そのような政治と政策の関係に光をあてて理解を深めましょう。



3 「安全保障・憲法」と同期する

我々の普段の生活が守られ、生きて行けることは大事なことです。しかし、地球規模で見れば、国家間の争いや緊張が絶えない時世でもあります。我が国の第二次世界大戦での敗戦から、日本国憲法第9条に定めた戦争の放棄、世界屈指の経済大国に成長する過程などにおいて、国家間の安全保障に関する現代的な側面と現状を知ることはとても重要です。さらに昨今は、経済安全保障ということもいわれるようになりました。このような安全保障・憲法についての諸課題に光をあてて理解を深めましょう。



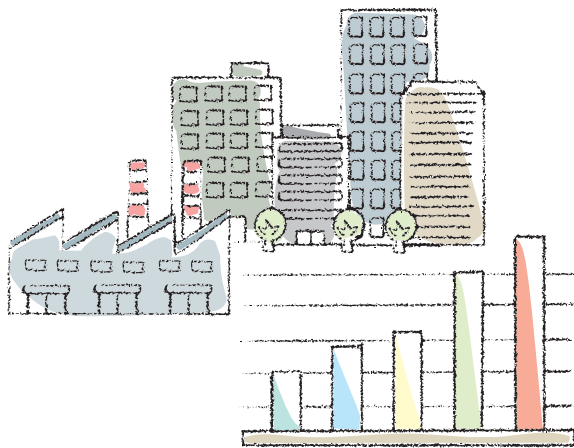
「同期する」とは？

「同期する」の意味は、期を同じくする、でしょう。「期」には、とき、定められた日時、示した6つのセカイも、年月を経るごとに変化し、日々動いているものです。ここでは、

で広がる

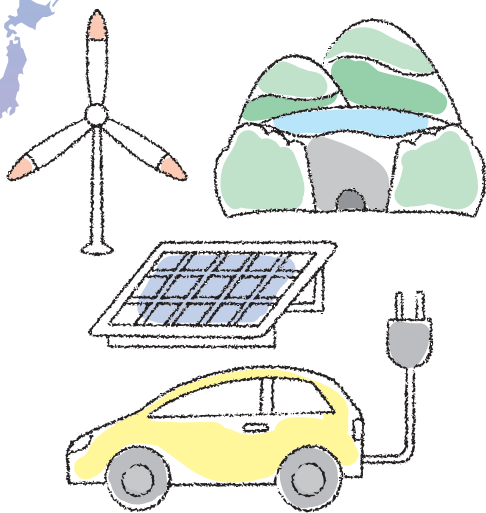
セカイ

4



「経済・産業」と同期する

我が国の経済は、1990年代のバブル崩壊前の勢いを未だに取り戻しておらず、失われた30年ともいわれています。米国はこの30年で堅調な成長を続けていますが、我が国はそのような成長ができなかった、という問題が指摘されています。世界経済の変化と日本の産業のあり方、世界の潮流にも目を向ける必要があります。経済の発展と産業の育成、企業のあり方についてどのように考えればよいのか、これらの諸問題に光をあてて理解を深めましょう。



「環境・資源・エネルギー」と同期する

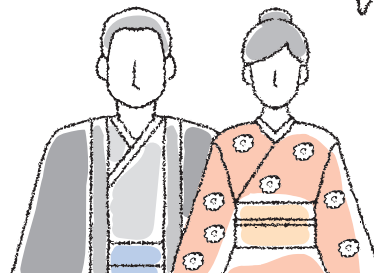
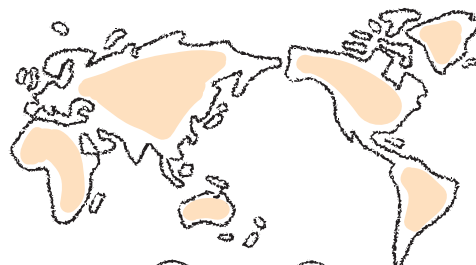
化石燃料の大量消費による地球温暖化は、地球規模課題の代表例です。これ以上の温暖化を防止するために、化石燃料の消費を可能な限り控える脱炭素、そして再生可能エネルギーへの転換が急速に進んでいます。エネルギー資源の確保や環境保全の問題は、GlobalにもLocalにも、国家と国家の間にも、そして経済や産業の面にも、縦に横に複雑に絡むものです。そのような環境・資源・エネルギーに関連する諸問題に光をあてて理解を深めましょう。

5

6

「世界/アジア」と同期する

国内における課題も多い中で、我が国は遠い国との国際協力も推進しています。このような国際協力の実践は、どのような思想・理念で行われているのかを知ることにも重要です。実は、グローバルと地域の日本、安全保障など、これまでに出てきた観点とも絡みあいます。中国の台頭と東南アジア諸国の対応、そして我が国との関係、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交もまた諸問題に直面しています。これらに光をあてて理解を深めましょう。



などの意味がありますから、「同期する」とは総じて相手のテンポや動きに合わせる、という意味を伝えるでしょう。ここにそれらに常に関心と興味を持ち続け、観察と理解を続けよう、という意味で「同期する」という言葉を当ててみました。

トップリーダーの
思考のプロセスを
学べた

専門以外の
視野が広がった

Student's Voice 授業に出席した

多角的な社会の捉え方を知る

人文・文化学群 比較文化学類

安藤 杏奈 [Ando Anna]

本講義のタイトルである「混沌化する世界と変貌する地方」という部分に共感を覚え、各業界のトップランナーが現代社会をどのように捉え、変革するのか考えを拝聴したいと考えた。本講義で興味深かったのは、多様な業界の先駆者たる人が講義を行ってくださるため、世界の状態や社会問題を多角的に捉えなおすことができたことである。また、講義の後に行われる質疑応答もまた非常に興味深かった。出席学生から、自身の興味関心に基づいた専門的な質問がなされ、それに講師の先生方がさらなる専門的知識をもって返答してくださった。

ディスカッションを通じて、 課題の本質を見る

人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群
国際日本研究学位プログラム

LI KUO

まず、この授業を受講しようと考えたきっかけは、ディスカッションが主体の授業であるため、先生や他の受講生との交流を通じて視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えたいと思ったからである。

そして、実際に授業を受けることで、これまで触れることがなかった経営現場の課題を知り、グループディスカッションでは興味深い意見交換もできた。特に、留学生である私にとっては、普段なかなか得られない企業訪問の機会を通じて、日本社会についてより深く知ることができた。

視野が広がる授業

生命環境学群 生物資源学類

小野 さくら [Ono Sakura]

様々な業界の最前線で活躍する方のお話が聞けるということで受講を決めました。近年の世界各国の情勢をグローバル化の視点からお話いただいたり、それとは反対に地域活性化に目を向けた政策も紹介されていて講義の前後でかなり自分の視野が広がったなど実感しております。自分が知らない分野のお話でも、講師の方が毎度、分かりやすく説明していただけるのでありがたかったです。受講を迷っている方はぜひ、受講してみてください!! どのたても後悔しない授業だと思います!!

知的好奇心を
刺激された

答えを知るのではなく
トップリーダーと
共に考える場

社会的課題の本質を突く講義

情報学群 情報メディア創成学類

駒谷 昌輝 [Komaya Masaki]

1年間の履修を組む際、私が履修できる講義について一つ一つ確認していたところ、シラバスに記載されていた講義内容に興味を惹かれ、この講義を履修することを決めました。何も考えずに履修を組むと自らの専門の授業に偏ってしまいがちですが、この講義は様々な業界の方の講演を聞くことができ、結果として社会全体に対する幅広い知見を得ることができます。講義を受ける中で特に印象に残ったこととして、平等と公正の違い、性的マイノリティの権利と女性の権利など、今注目を浴びている課題の本質的な部分を突く話が多かったことがあります。ただニュースを見ているだけでは至らない深い思考をする契機として、非常に貴重な講義でした。

トップリーダーからの問いかけ： 他者視点獲得と価値の再創造

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
教育学学位プログラム

田畑 智子 [Tabata Satoko]

筑波大学のJAPICコースを受講したのは、「トップリーダーから学べるなんて面白そう!」という興味からでした。しかし、講師陣の実体験や洞察は私の興味を遥かに超え、講義はネット情報や本から得る「机上の知識」では得られない、協働を通じた「身体知」獲得を練習できる場でした。

講師の面白くて難しい問いかけに、異分野の大学院生と協働しながら意見を出し合い、自分の価値観を見直す過程は刺激的でした。臨場感満載の生のビジネスで対峙されている「今ここにある社会課題」を解くには、知識やスキルだけでなく、協働と価値観の再創造が鍵だと思いました。知識やスキルを使って地球規模の課題を解いてみたい方にお勧めです。

就活生は 絶対履修すべきです!

人間総合科学学術院 人間総合科学研究群
体育学学位プログラム

堤 洸太郎 [Tsutsumi Kotaro]

講義全体を通して、商社のビジネスについて、まだ氷山の一角ではあるとは存じますが、理解することができました。これほどまでに経験豊富な方々からのお話をお聞きできる機会をいただけて、必ず将来に活かしてみせるという意気込みが今溢れています。現在就活中ですので、商社の業界にも当然興味は湧き、貴社の社員の方々に将来国を背負って働くことができれば、将来の目標である「いい父親になる」ことができるのではないかと、少し夢が膨らみました。必ず後輩たちにお勧めすることを誓います。

社会課題を自分事として 捉え直す

人間学群 心理学類

林 うは [Hayashi Uha]

多種多様な業界で活躍されている方のお話を直接伺える点に魅力を感じ、就職活動のためというやや打算的な理由で受講しました。予備知識はほとんどない状態でしたが、講師の方々及時事問題や身近な例を交えて説明してくださり、非常に理解しやすく興味深い内容でした。特に、これまで抽象的な概念として捉えていた社会課題を、より自分事として意識するようになりました。また、講師の方々のお話だけでなく、他の受講生からの質問も新鮮で、多様な視点に触れることができました。インターネットで容易に情報収集ができる時代ですが、直接お話を伺い、自分で考えることができる貴重な機会として、本講義は大変有意義であると感じています。



学生の感想

今まで遠い世界のことと思っていたことは意外に身近だ

実際の最前線で活躍する方々の話は、机上の勉強では得られない

講師と議論できる!

私たち世代に向けた授業

トップランナーの哲学を、起業と医学の現場へ

医学群 医学類

馬場 幸成 [Baba Yukinari]

医師を目指しつつ、スタートアップを立ち上げ、新しい医療インフラの提供を行っています。講義で語られた修羅場や戦略は、教科書にはない生きた学びでした。特に印象的だったのは、講師の方々が社会課題を「解決すべきビジネスチャンス」や「変革の種」として捉えている点です。この視点は、医療も巨大な社会システムの一部であると再認識させてくれました。医学の専門性と、本講義で学んだリーダーシップ性、そして起業で培った実践力。これらを掛け合わせ、既存の枠組みにとらわれない価値を社会に提供していきたいです。

社会課題に向き合う姿勢を考えさせられる実践的な講座

人間総合科学術院 人間総合科学研究群 医学学位プログラム

中島 修平 [Nakajima Syuhei]

このコースを受講したのは、「国際的なビジネスの場で現在活躍している方から直接話を聞けるなんて貴重な機会だな」と感じたためでした。講義の際には、講師の先生が今までにどういった課題と向き合ってきたか、どうやって解決してきたか、という経験や、その経験に基づく現在の思考や、現状で未解決の課題に対して今どう向き合っているのか、などを話していただき、毎回毎回、1冊の本を読んだような満足感がありました。そしてその講義をベースに未解決の課題が与えられ、異分野の学生と意見を交わして解決策を模索し、プレゼンを行いました。プレゼンに対して建設的なコメントをくださり、本講座の受講を通して視座が高まったように思います。

何よりの財産

理工情報生命学術院 数理物質科学研究群 応用理工学学位プログラム

秋田 宗志 [Akita Soshi]

今までの大学生活を振り返っても、これほど心が揺さぶられる講義は初めてだったと感じます。双日の現役役員の方々が語るリアルな修羅場や成功体験は、非常に説得力がありました。単に知識を得るだけでなく、リスクこそが価値を生むというマインドセットや、世界で起きている事象を他人事ではなく自分事として捉えることの重要性を学べたことは何よりの財産です。双日の方々との会話やグループワークで他分野の学生と議論を交わす中で、自身の視野がぐんぐん広がっていく感覚を味わいました。本講義を受講して本当に良かったと心から思います。学んだことをこれからの人生に活かしていきたいです。ぜひ、後輩の方々にも受講をお勧めします。



貴重な経験と新たな学び

総合学域群第1類

橋本 歩子 [Hashimoto Ayuko]

筑波大でしかできないような経験をした!と思っていました。実際、産業界・官界トップリーダーの方々の講義をきくことができ、非常に貴重な経験になりました。授業では専門的な内容も多く、正直ついていくのが大変だった内容もありましたが、身近な内容と関連づけることによって、たくさんの学びを得ることができました。「グローバル化」も、「地域活性化」も、ある決まった概念があるように思いません。これらの言葉から連想するものは、大体皆同じであるように思います。ですが、この授業を通して「グローバル化」も、「地方活性化」も、どの立場から見つめるかによって意味合いや関わり方が異なってくるように感じました。

物事の捉え方が変わる有意義な講義

芸術専門学群

今井 珠希 [Imai Tamaki]

私は地方の活性化に関心があったので受講を決めましたが、結果的にもっと広く日本や世界の現状について学びを深められたように思います。専門的な分野の話でもわかりやすく説明してくださったり、大きな社会問題との関連があったり、また学生とのディスカッションも内容が濃く、とても興味深かったです。特に議員事務所の方と防衛省の方の講義は、私たちがメディアを通して受け取る情報とは異なった、内情をよく知る視点からの考え方を学ぶことができ、自分の現代社会に対する見方が変わりました。この講義を経て時事問題の捉え方も変わり、より多角的な視点や思考を心がけるようになったと思うので、大変有意義な内容だったと感じています。

答えのない未来に、実務家は向き合うのか

人文社会ビジネス科学術院 人文社会科学研究群 国際公共政策学位プログラム

越後 彩香 [Echigo Sayaka]

日々メディアを通じて触れる社会課題や技術動向について、自分は傍観者のな立ち位置に留まっていると感じていた。現場で実際に意思決定を行う実務家の方々が直面する課題の実情や、答えのない問いへの思考プロセスを知ることによって、より当事者的な視点を獲得したいと考え受講した。

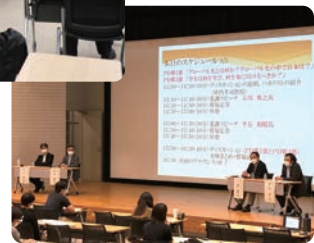
2つの講義を横断的に学んだことで、個別の技術論や政策論を超えた未来社会構想の全体像が見えてきた。特に印象的だったのは、実務家の方々が歴史から学び、現在を正確に理解し、そこから逆算して今なすべきことを導き出す思考法である。この学びを活かし、表面的な情報に満足せず本質を問い続ける姿勢、多角的な視点から未来を構想する力を磨いていきたい。

■ 総合科目(学士基盤科目)を受講した学生の感想

■ 大学院共通科目 アドバンスト・ディスカッションコースを受講した学生の感想

Think Globally, Act Locally.

Think Locally, Act Globally.



この講義について

この講義は、上の見出し：「地球規模で考え、地域で行動する。地域で考え、地球規模で行動する。（Think Globally, Act Locally. Think Locally, Act Globally.）」というフレーズがぴったりの講義です。このフレーズを見てもどこか現実感がない、そもそも地球規模の視点でものを考えると、地域で輝く活動をするとか言われてもピンとこなかったり、とっつきにくさを感じるかもしれません。でも、少し前向きに、まずはその実践例を知り、それをもとに自分ならどうするか、どうしたいか、を考えてみませんか？

まず、学群生向けに総合科目(学士基盤科目)として開講される「トップランナーが語る社会課題 - 混沌化する世界と変貌する地方」*は、その実践例を横断的に知るにはまさにうってつけです。国や地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取り組みなど様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取り組みやその実践に至るプロセスをご紹介します。さらに、受講生と講師の方々との質疑応答による議論に重きをおくのも本講義の特長です。その議論によって受講生のみなさんそれぞれの考えが沸々と湧くようになればよいですね。この講義に通底するキーワードはGlocalです。GlobalとLocalをつないだ造語ですが、上の見出しを一言でいうような単語ですね。講師の方々から紹介いただく内容は、みな、このGlocalな考え方に紐づけることができます。そして、紹介いただく内容そのものが、地球人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。

これから社会に出て、自分自身の立場を築いていくためには、自分自身の論を言葉で表現しなくてはなりません。その言葉を磨くためには、人と議論を重ねることがとても大切です。そのような濃密な議論ができるように、大学院生向けに大学院共通科目として、アドバンスト・ディスカッションコースと銘打ち、少人数のゼミ形式の講義を用意しました。通底する意識は学群生向けの講義と同様ですが、テクノロジーの活用とGlocalな思想と行動様式、多極化した世界とこれからの日本に焦点をあて、議論を深めていきます。

*令和6年度以前に開講していた「社会基礎学Ⅰ－「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成」と同一。

JAPIC について



JAPIC 会長
進藤 孝生
[Shindo Kosei]
日本製鉄(株) 相談役

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council : JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在43業種220社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。



筑波大学 × JAPIC

この冊子に掲載されている講義は、すべて、筑波大学と日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づいて開設しています。この目的は、本学とJAPICとが相互に連携・協力して、世界で活躍できるグローバル人材の育成を推進し、この国の学術教育研究の振興・発展と人材育成に寄与することです。この協定は、2010年10月に締結され、年度ごとに更新されながら現在に至っています。今現在、産業界・官界で活躍し、世界に挑戦するトップリーダーの方々の派遣も、この協定によるJAPICの指名および本学との協議に基づくものです。トップリーダーからのリアルな実体験を交えての話をお聴きし、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か」など、様々な話題について掘り下げていただきます。講義内外でのディスカッションも交えながら、皆さんが地球規模の課題や社会と自身とのつながりを見つめ、目の前の問題にどう貢献できるかを考えてくれることを期待しています。



教育担当副学長
竹中 佳彦
[Takenaka Yoshihiko]

● 左上の見出しについて

この見出しは、平成15年版 環境白書の第2章 冒頭部分から引用しました^[1]。実は、このフレーズは、この白書が初出なのではなく、以前から様々な識者が使っているようです。この白書では、地球環境の保全と地域の環境との関係を個別にせず、一連の問題として取り組むことの訴えとしてこのフレーズを示していました。地球規模の課題はとて大きく感じられ、身近にとらえることは難しくても、自分が住む地域のことであれば身近にとらえることもできそうです。大きな地球の問題は地域の問題として活動してみよう、そして、地域の問題を考えることは地球規模の課題として活動してみよう、ととらえてはいかがでしょうか？ さらに地球規模の問題を、単に環境問題だけに絞るのではなく、政治・経済・社会・国際関係など、様々な分野に広く複雑に絡み合うことにも考えをつなげてみましょう。

[1] <https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h15/index.html>

春BC 1226151

トップランナーが語る社会課題 — 混沌化する世界と

世話教員 ● 岡本 直久 (システム情報系・教授) 他

第1回

6/6 (土) 13:30-16:30

導入講義Ⅰ

筑波大学におけるグローバル人材育成方針

筑波大学特命教授
学長特別補佐

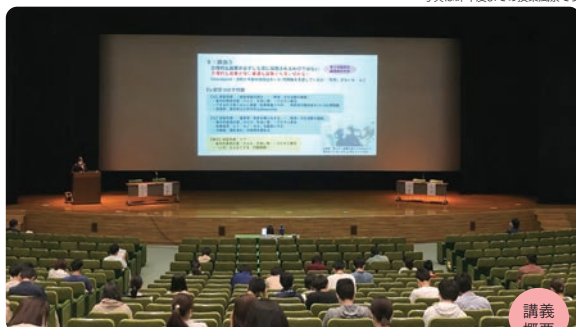
坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

導入講義Ⅱ

連続リレー講義の意味・意義と狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]



写真は昨年度までの授業風景です

講義
概要

グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

パネルディスカッション

第1部

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

パネルディスカッション

第2部

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

パネリスト

パシフィックコンサルタンツ株式会社
人事部人材戦略室 室長

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

パネリスト

国土交通省 不動産・建設経済局 不動産業課長

倉石 誠司 [Kuraishi Seiji]

コーディネーター

筑波大学特命教授
学長特別補佐

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

第2回

6/13 (土) 13:30-16:30

組織におけるダイバーシティと人財活用

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員

原田 文代 [Harada Fumiyo]

講義
概要

中長期的には社会・経済のグローバル化やサステナビリティへの対応の必要性を背景に、ダイバーシティの重要性はますます高まると考えられる。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な特性と個性の組織内への取込み、活用につき、歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。また国内外の先進的事例を交えつつダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

我が国のサイバー安全保障

内閣官房 国家サイバー統括室
内閣審議官(能動的サイバー防御運用総括担当)

飯島 秀俊 [Iijima Hidetoshi]

講義
概要

戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する中、サイバー空間を取り巻く情勢も深刻化している。国家の関与が疑われる攻撃も顕在化し、質・量の両面でサイバー攻撃の脅威は増大し、国民生活や経済活動、ひいては国家安全保障に深刻な影響を及ぼしている。こうした状況に対する我が国としての取り組み、特に能動的サイバー防御を可能とする新法等やサイバーセキュリティ戦略の制定作業のエピソードを交え、分かりやすく説明する。

変貌する地方

※令和6年度以前に開講していた「社会基礎学」
—「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成」と同一。

第3回

6/20 (土) 13:30~16:30

企業経営の現状・課題と戦略

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

三好 忠満 [Miyoshi Tadamitsu]

講義概要

本講義では、鉄鋼メーカーである日本製鉄の過去から現在までの歴史や取り組みを通じて、日本の製造業が目指す成長戦略や課題について考察する。／①「鉄」という素材の多様な特性・魅力／②プラザ合理による超円高、中国の台頭、川上・川下業界の再編等の危機をどのように乗り越えてきたか／③人口減少による内需縮小、気候変動への対応ニーズの急激な高まり等の環境変化にどう向き合っていくか

モビリティ革命とMaaS (マース)

一般財団法人計量計画研究所 理事
兼 研究本部企画戦略部長
牧村 和彦 [Makimura Kazuhiko]

講義概要

モビリティ革命の本命といわれる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスです。本講義では、移動革命の最新動向やMaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

第4回

6/27 (土) 13:30~16:30

国際経済と総合商社の活動

丸紅株式会社 グローバル総括部 部長補佐

重吉 玄徳 [Shigeyoshi Harunori]

講義概要

本講義では、激動する国際経済の中で、総合商社がいかに戦略的にビジネスを展開してきたかを解説する。グローバル市場の変化に対応する総合商社の機能と役割を踏まえ、MBAで学ぶ経営戦略や財務管理の概念をわかりやすく紹介する。さらに、総合商社の事例を通じて、国際ビジネスの場で活躍するために必要な知識やスキルについても掘り下げていく。

グローバル化の変容と日本経済

(一社)共同通信社 論説委員長

永井 利治 [Nagai Toshiharu]

講義概要

冷戦終結後に大きく進展したグローバル化は米中対立、ロシアのウクライナ侵攻によって大きく変わりつつある。新たな基軸として登場した「経済安全保障」が実行段階に入り、民主主義陣営と強権国家群の対立は隠しようもない。世界の分断という現実に直面する日本企業はどう活路を見いだすのか。政治、経済、外交を巡る日々のニュースを意識しながら、成長を続けるためのヒントを考えてみたい。

第5回

7/4 (土) 13:30~16:30

未来のくにづくりを担う皆さんへ

前内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文 [Mori Masafumi]

講義概要

安全・安心で豊かな国民生活の実現や我が国の持続的な経済成長のため、激甚化・頻発化する自然災害やインフラ老朽化等の国家の危機から国民の生命・財産・暮らしを守り、DX・新技術の徹底した社会実装等によりイノベーションを促進することが求められている。総理大臣官邸で社会資本整備や科学技術イノベーション政策に携わった立場から、我が国を取り巻く現状と課題、未来のくにづくりを担う将来のエンジニアへの期待を語る。

日本産業のありたき姿について

(株)みずほ銀行 執行役員 産業調査部長

定岡 祐二 [Sadaoka Yuji]

講義概要

日本は今、不安定な世界(米中拮抗、覇権国不在)、人口減少・高齢化、サステナビリティ実現、テクノロジー変化といった大きな潮流の変化の中に身を置いている。本講義では、日本産業を取り巻く環境の変化と、それを踏まえた日本産業のありたき姿について考察する。

確認テスト

7/11 (土) 13:30~16:10

春BC 0A00402

次世代モビリティと未来社会像

世話教員 ● 大学院共通科目部会長 他

社会のデジタル化と世界に大きな影響を与えるクリティカルエマージングテクノロジーの最新動向を共有、次世代モビリティと未来社会像を議論する。自動車エンジニア、政府官僚、企業経営の経験から最新動向の解説と課題に対する提言手法を演習する。

担当教員

CYBERDYNE株式会社 取締役
筑波大学特命教授、慶應義塾大学特任教授、東北大学参与、大阪公立大学法人特別顧問
高原 勇 [Takahara Isamu]

キーワード

次世代モビリティ、エネルギー、都市と地域社会、クリティカルエマージングテクノロジー

第1回

5/27 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

● 講義「取り巻く環境変化と次世代モビリティの最新動向」と全員参加による議論

次世代モビリティと取り巻く技術革新や注目される世界観を共有したうえでディスカッションを行う。さらにグループワークによる次世代モビリティと未来社会像を描く演習を実施。

第2回

6/10 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

● 講義「世界が直面する社会課題とエマージングテクノロジー」と全員参加による議論

科学政策の最新動向について情報共有したうえで、グループワークによるAIと量子技術などのエマージングテクノロジーの活用による新たな都市と地域像を描く演習を実施。

第3回

7/22 (水) 13:00-17:30 筑波大学 筑波キャンパス

講義概要

● 講義「日本が目指す社会像と次世代モビリティの社会応用」と全員参加による議論

第1回、第2回の講義を通して検討した内容を前提に、次世代モビリティによる都市と地域の未来社会像についてグループワークによる総括議論を実施。



写真は昨年度までの授業風景です

秋AB 0A00401

多極化する世界とこれからの日本

世話教員 ● 大学院共通科目部会長 他

混迷の度を深める世界の中で日本は？難局に立ち向かう皆さんの決心は？

担当教員	双日(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー 平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]	双日(株) 執行役員 リスク管理担当本部長 小田 人史 [Oda Hitoshi]
------	--	--

キーワード	過去を知り、現在を正しく理解して、未来を予測する力を養う契機とする。世界の潮流に対する知見を深め、自分の考えを発信することにチャレンジしよう。
-------	---

第1回 **10/7** (水) 13:00~17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- **アイスブレイク**：自己紹介・事前課題に基づく発表と会話
- **講義**「100年の世界史と今の世界政治・経済について」と全員参加による議論

第2回 **11/4** (水) 13:00~17:30 筑波大学 筑波キャンパス

- **講義**「戦後経済・商社ビジネスモデルの変遷」と全員参加による議論

第3回 **12/2** (水) 13:00~17:30 双日(株) 本社

パネルディスカッション テーマ 事例に基づく商社リスクマネジメントの今と将来

パネリスト	双日(株) 執行役員 リスク管理担当本部長 小田 人史 [Oda Hitoshi]	双日(株) シニア・エグゼクティブ・アドバイザー 平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]
-------	--	--

事前に提起された課題と発表・全員参加による議論

- **ラップアップ・セッション**（ゼミ全体の振り返り）

(第3回授業終了後に双日社内カフェテリアにて双日社員も参加したカジュアルなレセプションを開催予定。)

登壇される講師のプロフィール一覧

筑波大学特命教授
学長特別補佐

坪内 孝司 [Tsubouchi Takashi]

1994年より筑波大学で教えている。本学出身。専門はロボット工学。特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が主テーマ。2018年より教育企画室長、2020年より23年まで教学デザイン室長。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味:古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダーの演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

京都市出身。1993年新日本製鐵(現日本製鉄)入社。営業(厚板)、支店総務等を担当。勤務地は、堺製鉄所(大阪)を皮切りに、東京、名古屋、大阪を経験。最後の5年間はプロジェクト開発部にて海外インフラ案件を担当。東南アジア、南アジア、中東等にも出張。2022年からJAPIC勤務。趣味は、山登り、京都探訪(京都検定2級取得)、読書、少しだけ乗り鉄。

国土交通省 不動産・建設経済局 不動産課長

倉石 誠司 [Kuraishi Seiji]

島根県松江市出身。1999年旧建設省入省。英国で都市政策を学び、修士号取得。2020年より不動産・建設経済局参事官として不動産賃貸管理業の新法施行に尽力。2021年より総合政策局地域交通課長。地域交通の「リ・デザイン」を主導し、地域交通法を改正。2023年夏より国土政策局 総合計画課長。令和初の国土形成計画の策定を経て、二地域居住促進法の制定、地域生活圏の実装に取り組む。2025年夏より現職。

パシフィックコンサルタンツ株式会社
人事部人材戦略室 室長

石崎 晶子 [Ishizaki Akiko]

2003年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社、気候変動・生物多様性のコンサルティング業務に従事。その後、新事業企画・開発の部署にて地域創生や地域事業化支援等に関わる。2018年より本社に異動、経営企画部でガバナンスや風土改革、現所属の人事部では人材マネジメントや次世代経営人材育成に関わっている。出身は岡山県、大学は北海道。趣味は仕事と子育て。座右の銘は「死ぬこと以外はカスリキズ!」

(株)日本政策投資銀行 常務執行役員

原田 文代 [Harada Fumiyo]

地域開発プロジェクトや発展途上国等への技術支援、海外企業の対日投資、日本企業の対外インフラ投資等を担当後、世界銀行グループ国際金融公社にて東アジアのインフラ整備に従事。DBJシンガポール副社長、国際統括部長兼女性起業サポートセンター長、ストラクチャードファイナンス部長等を経て2021年より現職。サステナビリティ経営戦略策定と推進担当。趣味:ウォーキング。

内閣官房 国家サイバー統括室
内閣審議官(能動的サイバー防御運用総括担当)

飯島 秀俊 [Iijima Hidetoshi]

神奈川県横浜市出身。1995年防衛庁(当時)入庁。在米国日本大使館、内閣官房に outward。防衛省では、調査課長(インテリジェンス政策担当)、防衛政策課長を経て、2023年から内閣官房にて、2025年5月に成立したサイバー対処能力強化法等(能動的サイバー防御法)の制定作業に従事。現在、内閣官房国家サイバー統括室で内閣審議官として能動的サイバー防御の運用総括を担当。

Profile

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

三好 忠満 [Miyoshi Tadimitsu]

1992年新日本製鐵(株)(現・日本製鉄(株))入社。本社および製鉄所において原料購買、人事・総務等を担当後、2020年4月よりブリキ営業部長、2021年4月より執行役員ブリキ・電磁鋼板営業部長、2023年4月より執行役員人事労政部長。出身地:愛媛県、趣味:子どもの野球チームの応援、ゴルフ、読書、美味しいもの探し。学生時代はバレー・バンド・アメフト。

一般財団法人計量計画研究所 理事
兼 研究本部企画戦略部長**牧村 和彦** [Makimura Kazuhiko]

1990年(一財)計量計画研究所(IFS)入所。東京大学 博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事、将来のモビリティビジョンを描くモビリティ・デザイナー。代表的な著書に、「MaaSが都市を変える、学芸出版(不動産協会賞受賞)」、「Beyond MaaS〜日本から始まる新モビリティ革命(日経BP、共著)(交通図書賞他受賞)」等多数。

丸紅株式会社 グローバル総括部 部長補佐

重吉 玄德 [Shigeyoshi Harunori]

1997年、丸紅株式会社入社。エネルギー部門を経てペンシルバニア大学ウォートン校でMBA取得。その後、金融、人事、広報部を経て現職。2014～2016年経団連 経済政策本部に出向。青山学院大学経済学部非常勤講師。

(一社)共同通信社 論説委員長

永井 利治 [Nagai Toshiharu]

一橋大社会学部卒。1986年毎日新聞社、88年に共同通信社に入社。経済部の記者として日米貿易摩擦、金融危機、銀行再編、財政・金融政策などを取材。1995年から98年まではワシントン支局。経済部長、特別報道室長、編集局次長、論説副委員長を経て2022年9月から現職。東京五輪・パラリンピックの取材、報道にも準備段階から5年余り携わった。趣味は読書。千葉県出身

前内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の
社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策
その他特命事項担当)**森 昌文** [Mori Masafumi]

1981年建設省入省。米国連邦運輸省道路庁、土木研究所ITS研究室長、近畿地方整備局長を経て、道路局長、技監、事務次官を歴任。入省後に「交通需要」に関する論文で博士号を取るなど交通全般にも明るい。2022年より2025年まで内閣総理大臣補佐官として社会資本整備、科学技術イノベーション政策等を担当。東京大学等の客員教授も務める。リラックスする時に使う「お香」にも詳しい。

(株)みずほ銀行 執行役員 産業調査部長

定岡 祐二 [Sadaoka Yuji]

1996年日本興業銀行(現・みずほ銀行)入社。米州業務部や戦略企画部等を経て、2019年4月産業調査部総括チーム次長、2020年4月同部副部長、2023年4月より現職。産業調査部では、国内外で140名の部員を率い、約40の産業に関する調査・提言活動を統括。

登壇される講師のプロフィール一覧

CYBERDYNE株式会社 取締役
筑波大学特命教授、慶應義塾大学特任教授、
東北大学参与、大阪公立大学法人特別顧問

高原 勇 [Takahara Isamu]

トヨタ自動車株式会社入社、クラウン・レクサスGSなど新車開発を担当。グローバル開発、設計革新の全社リーダー、BR-VI室長、VA開発部長、技術統括部主査を経て、内閣府委員、産業競争力懇談会実行委員、筑波大学未来社研究開発センター長を兼職。2019年6月内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）。2024年9月より現職。日本工学アカデミー正会員、博士（社会工学）。

双日(株)
シニア・エグゼクティブ・アドバイザー

平井 龍太郎 [Hirai Ryutaro]

1982年日商岩井(株)、現双日(株)入社。双日(株)米国法人・経営企画部長、人事総務担当役員、アジア・大洋州総支配人、営業管掌役員、代表取締役副社長などを経て2024年6月より現職。福岡県出身。海外在住は中国(北京)、米国(ニューヨーク)、シンガポールで通算12年。お酒とゴルフを嗜まない、商社パーソン・スタンダード逸脱モデルの人材だったが、コロナを機にゴルフに挑戦。退任後は若者の教育と体力の回復に時間を使いたい。今はピクセルボールに夢中。

双日(株)
執行役員 リスク管理担当本部長

小田 人史 [Oda Hitoshi]

1968年生まれ、兵庫県出身。1991年日商岩井(株)入社。一貫して、企業審査、債権回収、事業再生などのリスク管理業務に従事。食料・アグリビジネス、リテール・生活産業、産業基盤・都市開発本部担当のリスク管理業務、双日プラネット(株)出向を経て、2024年より現職。また、2003年より約3年間、政府系再生会社に在籍、他業界も経験。趣味は、野球などのスポーツ観戦。



Q & A



Q1

「トップランナーが語る社会課題 — 混沌化する世界と変貌する地方」の講義はどのような内容ですか？

A1

この講義では、国は地方自治の立場から、あるいは、街づくりや国づくりの立場から、さらには、地方の活性化への取組など様々な立場で、その最前線にいるトップランナーの方々から、それぞれの実践的な取組やその実践に至るプロセスをご紹介します。講師の方々から紹介いただく内容そのものが、地球人も生物もが織りなす社会の基礎となるものでしょう。

Q2

**受講することにより
どんなことが期待されますか？**

A2

この講義で学んだことを基礎に、今度は受講した皆さんご自身が、社会にどのように貢献し、どのように力を磨き、そのために学生の期間をどう使えばよいのか、を考える一助にしてほしい、と期待しています。学生の皆さんにはこの講義で最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉えることで、人間力、汎用力、広い視野を持ったグローバル人材としての能力を身につけてほしいと思います。

Q3

学士基盤科目って1科目だけ受けておけばいいんですよね？

A3

確かに、総合科目のなかで学士基盤科目と設定される科目から1単位以上取得することが全学共通の卒業要件になっていますが、これは必要最小限の数にとらえていただきたいのです。この要件に関係なく、知見を広げるために興味をもてる科目の受講を歓迎します。本学の特長である総合智教育のなかで、汎用智をになう科目群としてこの学士基盤科目も設定しています。自分の専門領域にとどまらず、その領域の外からの視点でのもの見方にも触れることで、知識の裾野を広げ、「複眼的」「俯瞰的」な視座をもってほしいと願っています。このような視座は「創造的問題解決」をしてゆく力の源泉となると考えられるからです。

Q4

秋の講義は春の講義を受けた人でないと受けられませんか？

A4

それぞれ独立した科目なので、どちらかだけでも受講することができます。また、春学期の講義内容が、秋学期講義の前提知識として求められることはありません。



Q5

大学院生ですが、総合科目(学士基盤科目)「トップランナーが語る社会課題 — 混沌化する世界と変貌する地方」の講義を受けてもいいですか？

A5

大学院生も特別履修願を提出することにより履修が可能です。TWINSの「特別履修申請」にて申請書を作成し、指導教員及び学位プログラムリーダー又は専攻長の承認印をもらい、対応支援室大学院教務担当へ提出してください。修得した単位が修了の要件となるかは教育組織により異なりますので、対応支援室大学院教務担当にご確認ください。

Q6

**授業の雰囲気は
どのような感じですか？**

A6

講義の回は、各講師の話聞いた後、質疑応答の時間があります。また、パネルディスカッションを行う回では、会場からの質問や意見をもとにパネリストがそれぞれの立場から発言し、議論が展開されます。皆さんの声の講義に反映されますので、積極的な発言を期待します。更に、授業後は講師に個別に質問することもでき、質問待ちの行列ができることもあります。

Q7

**「大学院アドバンス
ディスカッションコース」は
どのようなものですか？**

A7

大学院共通科目として2科目開講されていますが、いずれも10～15名程度の少人数のディスカッションコースです。産業界のトップリーダーと直接対話できることもこの講義の特長ですが、様々な分野の学生が集まって濃密な議論が行われることも大きなポイントです。講義の事前・事後課題や提示される課題図書、統計資料を読み込み、論点を整理し、授業に臨むことで大いに学びが得られます。



● 総合科目(学士基盤科目)に関わるQ&A

● 大学院共通科目 アドバンス・ディスカッションコースに関わるQ&A

教員の声

視野を広げて、可能性を高めよう

この講義の特徴は、要約すると「各分野のトップランナーである講師陣に会えること、教えてもらえること」だと思います。社会人になって、みなさんが、それぞれ活躍するようになれば、本当の意味でのこの講義の意図や価値が理解できると思います。でも、今は、その理解は不要です。むしろ、この講義をきっかけに自身の幅を広げてもらえることを期待しています。別の言葉で表すなら、みなさんには、引き出しを増やして欲しいと思います。大学に入学し、希望していた専門分野の講義も楽しみだろーと思います。ただ、それらを踏まえた上で、今、まさに日本で、アジアで、世界が直面する課題について、理解し、どのように取り組まなければならないかを考察することへ、よりステップアップしてもらいたいと思います。課題について、潜んでいる構造を理解することはなかなか難しいものです。この講義で、まさに現在、各分野、各領域を牽引している方々のお話を聞いてください。その中で、必ずや自身が将来、世の中に対してどのように貢献出来るかの答えを見つけることが出来るはず。みなさんには、グローバルにリーダーシップを発揮できる能力が潜んでいると信じています。



システム情報系教授

岡本 直久

[Okamoto Naohisa]



人文社会系教授

五十嵐 泰正

[Igarashi Yasumasa]



人文社会系教授

島田 雅晴

[Shimada Masaharu]

こんな授業を受けてみたかった！

みなさんは、大学で勉強したことが社会に出でから直接役に立つ場面なんてあるのだろうか、と思っただけではないでしょうか。大学では専攻する学問分野を決めて、専門性の高い勉強を進めていきます。学問分野により多少の違いはあるでしょうが、そのように専門性を深めていく中で、自分が学んでいることが社会の営みとどのように結びつくのかイメージが湧かないと感じることも確かにあるかもしれません。しかし、私たちは社会の営みにおいて何が課題となっているのか、人はそれにどのように立ち向かっているのかについて、実際のところどの程度知っているのでしょうか。

この講義では社会の第一線で現実に課題に向き合い、その解決を目指して日々活動に従事している方々が講師をつとめられます。そのような方々の経験に根差した貴重なお話をうかがえる機会は滅多にありません。いまからでも遅くはないとはいえ、私もみなさんのように学生の頃にこのような機会に出会っていたらと思ってしまいます。ぜひこの講義を受講して刺激を受けてみてください。新たな視点が加わり、また、新たな姿勢で勉強に取り組むことができます。そして、大学の勉強と社会がつながっていくはず。ぜひ。

知的でエキサイティングな土曜の午後

みなさん、土曜日の午後をこの「社会基礎学」の受講で、知的にかつエキサイティングに過ごしてみませんか？この科目の受講で広がる知識は、これから社会人になったのちに、あるいは就活の際にもきっと役立つでしょう。科目名だけみると、これは社会系の講義だろう、自分の専門分野とは直接関係ないし・・・と思うかもしれませんが、でも、講義に出席してみたら、その印象は徐々に変わり、自分の専門分野が社会を通してのどのようにかかわるかが、おぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づきます。

これから各自が専門とすることになる学問分野は、およそ地球上にある物質や環境、人や生物の営みと関連します。人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップリーダーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながら聴くことができるまさにおススメの講義なのです。普段、新聞やテレビのニュースで見聞きする問題に日々接しておられる方々からの直接にお話を聞くことができます。講師の先生方とのディスカッションの時間も豊富に用意します。積極的に自分の意見を表明して議論に参加してみませんか？教室でお会いしましょう！

筑波大学特命教授
学長特別補佐

坪内 孝司

[Tsubouchi Takashi]

未来社会のデザイナーとなる皆さんへ

「2040年問題」をご存じでしょうか。高齢者人口割合の最大化と生産年齢人口の減少が同時に進行し、国内経済や社会の維持が困難になる状況を指しています。現在、日本の人口は1億2千万を超えていますが、近年では急速な少子高齢化に伴う人口減少が続いています。世代構成の歪みに起因する課題は、労働力の確保や社会福祉制度の維持などにおいて、すでに顕在化していますが、とりわけ地方では社会を支える人材不足が深刻な状況です。2040年の私も(生きていれば)後期高齢者。きっと皆さんに支えられていることでしょう。

少々暗い話をしましたが、実はピンチはチャンス。人口減少社会とは、ひとり一人が大切な人材となる時代。皆さんの活躍のステージは無限に広がっているといっても過言ではありません。筑波大学で学ぶ皆さんは、未来社会のデザイナーとして新たな価値を開拓することが期待されています。この授業はその羅針盤となるもの。皆さんが学ぶ学問が未来社会とどのように関わってくるのか。社会の第一線で活躍している講師の方々と「共振」することによって見えてくるはずです。私も皆さんと一緒に学んでいきます。迷惑な高齢者にならないように…



教学デザイン室長
生命環境系教授

松井 圭介

[Matsui Keisuke]



2025年度大学院共通科目部会長
生命環境系准教授

柏原 真一

[Kashiwabara Shinichi]

トップリーダーとの知的な時間

「不確実性の時代」。言い古されたフレーズではありますが、今までにも増してこれからの日本そして多極化した世界では激変が予想されます。変化を先読みし、それに対して備えていかなければならないと感じています。そのためには、どのような課題があり、そしてこれから何が起ころのか知る術を身に付ける必要があります。

本講義の特徴は、通常の講義では接する機会のない、産業界でさまざまな困難な課題と対峙してきたグローバルトップリーダーの講師陣と、直接ディスカッションできることです。また、様々な分野の学生が集まって議論が行われることも魅力の一つです。自身の専門性を踏まえたうえで、いま日本で、そして多極化した世界が直面している課題について知ることは自身の知識や視野の裾野を広げることに通じます。まさに、「教室でセカイと同期する。」にふさわしい内容となっています。各分野を牽引してきた講師の先生方の経験や考え方の生の声に触れることで、あらたな「気づき」が得られると思います。

「混沌化する世界」と「変貌する地方」で活躍できる人材とは？

日本プロジェクト産業協議会 常務理事
筑波大学客員教授

林田 康洋 [Hayashida Yasuhiro]

世界は今混迷を極めていますが。2020年に始まるコロナ禍、それに続くロシアのウクライナ侵攻、パレスチナ問題等によって、世界は分断の危機を迎えました。インターネットやSNSの発展、経済のグローバル化等により、世界はより近くなると思われていましたが、世界は変わってしまったのでしょうか。資源に乏しくグローバル化の中で成長を遂げた日本にも、大きな課題が突きつけられています。

地方も危機が叫ばれています。人口減少や少子高齢化、全国の4割は「消滅可能性自治体」とのレポートも出されました。一方で、独自の地域資源を活かして関係人口を増やし、活力ある街づくりを行っている地方もあります。世界も地方も、先

の見通しづらい変動の時期に皆さんは社会に出ていくこととなります。いずれにおいても、そこで活躍するためには、まずは自分自身を見つめなおすとともに、自らの将来に向けて、幅広い知識・情報を得ることが必要です。

この講義では、世界の中でまた地方において、第一線で活躍する多彩な講師が登壇します。講師皆さんが抱えている、それぞれの夢や希望や現実的な課題を話してくれるはずです。これからの人生、あなたはどのような活躍の場所を見つめますか？ この講義が、皆さんにとって自分自身の進む道を考える一助になればと思います。教室でお会いできるのを楽しみにしております。

受 講 案 内

2026

筑波大学 × JAPIC
日本プロジェクト産業協議会

総合科目(学士基盤科目)

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

<p>総合科目 (学士基盤科目) 春BC</p> <p>トッパンリーダーが語る社会課題 — 混沌化する世界と変貌する地方 — グローバル化と地方の活性化(上野誠司先生の 「グローバル化と地方の活性化」を再読する)の 「グローバル化」と「地方の活性化」の両面からの 「グローバル化」と「地方の活性化」の両面からの</p> <p>世話教員 岡本 直久 五十嵐 泰正 島田 雅晴 坪内 孝司 松井 圭介</p>	第1回 6/6 (土) 13:30-16:30	【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針 【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い 【パネルディスカッション】【第1部】グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 【パネルディスカッション】【第2部】学生は何を学び、何を身に付けるべきか?	坪内 孝司 林田 康洋 林田 康洋・倉石 誠司 石崎 晶子・坪内 孝司
	第2回 6/13 (土) 13:30-16:30	組織におけるダイバーシティと人財活用 我が国のサイバー安全保障	原田 文代 飯島 秀俊
	第3回 6/20 (土) 13:30-16:30	企業経営の現状・課題と戦略 モビリティ革命とMaaS(マース)	三好 忠満 牧村 和彦
	第4回 6/27 (土) 13:30-16:30	国際経済と総合商社の活動 グローバル化の変容と日本経済	重吉 玄徳 永井 利治
	第5回 7/4 (土) 13:30-16:30	未来のくにづくりを担う皆さんへ 日本産業のありたき姿について	森 昌文 定岡 祐二
	7/11 (土) 13:30-16:10	確認テスト	

大学院共通科目

世界に挑む産業界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコース

<p>春BC 未来社会像 次世代モビリティと</p> <p>世話教員 大学院共通科目部会長 他</p>	第1回 5/27 (水) 13:00-17:30	講義「取り巻く環境変化と次世代モビリティの最新動向」と全員参加による議論	高原 勇
	第2回 6/10 (水) 13:00-17:30	講義「世界が直面する社会課題とエマージングテクノロジー」と全員参加による議論	高原 勇
	第3回 7/22 (水) 13:00-17:30	講義「日本が目指す社会像と次世代モビリティの社会応用」と全員参加による議論	高原 勇
<p>秋AB これからの日本 多極化する世界と</p> <p>世話教員 大学院共通科目部会長 他</p>	第1回 10/7 (水) 13:00-17:30	【アイスブレイク】自己紹介・事前課題に基づく発表と会話 【講義】「100年の世界史と今の世界政治・経済について」と全員参加による議論	平井 龍太郎
	第2回 11/4 (水) 13:00-17:30	【講義】「戦後経済・商社ビジネスモデルの変遷」と全員参加による議論	平井 龍太郎
	第3回 12/2 (水) 13:00-17:30	【パネルディスカッション】 テーマ:「事例に基づく商社リスクマネジメントの今と将来」 事前に提起された課題と発表・全員参加による議論 【ラップアップ・セッション】	平井 龍太郎 小田 人史